



しあわせ信州

長野県食と農業農村振興審議会長野地区部会 次第

日時：平成 25 年 8 月 5 日（月）14:00～16:00

場所：長野合同庁舎 本館 504 号会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 長野県食と農業農村振興の県民条例について

(2) 平成 24 年度長野地域の取組状況について

ア 平成 24 年度長野地域の取組実績（案）について

イ 達成指標別進捗状況（平成 20～24 年度）

ウ 食と農業農村振興計画に係る地域プロジェクトの取組実績について

(3) 第 2 期 長野県食と農業農村振興計画について

(4) 平成 25 年度長野地域実行計画の具体的取組方策について

(5) 意見交換

(6) 今後のスケジュールについて

4 閉 会

掘り起こそう、足元の価値。
伝えよう、信州から世界へ。



長野県地産地消推進キャラクター 旬ちゃん

長野県食と農業農村振興審議会 長野地区部会委員名簿

(第4期任期：平成25年8月5日～平成27年8月4日)

(敬称略、区分別・五十音順)

区 分	氏 名	役 職	市町村	備 考
農業者の代表	あおき かずまさ 青木 和正	長野県農業経営者協会 長野支部長	長野市	新任 (花き)
	なかじま きよえ 中嶋 喜代栄	長野県農村生活マイスター協会 更埴支部長	千曲市	新任 (果樹)
農業関係団体の代表	こばやし よしのぶ 小林 芳信	ながの農業協同組合 常務理事	長野市	新任
	わたなべ すみお 渡邊 澄男	須高農業協同組合 理事営農生活部長	須坂市	2期目
農業委員の代表	いとう みよこ 伊藤 己代子	長野県女性農業委員の会 長野支部長	小川村	新任
消費者の代表	ちの野 りい 千野 里い	坂城町消費者の会 会長	坂城町	新任
農産物流通事業者の代表	ほり堀 あつし 堀 敦	長野県連合青果株式会社 長野支社執行役員 野菜部長	長野市	新任
農産加工事業者の代表	のざわ ゆきこ 野沢 幸子	有限会社 たんぽぽ 菓子部門責任者	長野市	新任
市町村の代表	ながうら かずよし 長浦 一喜	千曲市経済部農林課長	千曲市	新任
	まき牧 しゅうぞう 牧 修三	高山村産業振興課長	高山村	新任
	10名			

長野県食と農業農村振興審議会長野地区部会座席表

平成 25 年(2013 年) 8 月 5 日 (月)

長野合同庁舎 504 号会議室

議長席

青木 委員
中島 委員
小林 委員
渡邊 委員
伊藤 委員

千野 委員
堀 委員
野沢 委員
長浦 委員
牧 委員

(事務局)

竹腰 農政課 課長補佐	松下 農改セン ター一次長	東 農政課長	島田 地方事務 所長	北村 農地整備 課長	唐沢 長野家畜保 健衛生所長
-------------------	---------------------	-----------	------------------	------------------	----------------------

宮川 農政課 課長補佐	高橋 農改セン ター課長補佐	大日方 農改セン ター課長補佐	宮澤 農改セン ター課長補佐	原 農改セン ター課長補佐	市瀬 農地整備課 課長補佐
-------------------	----------------------	-----------------------	----------------------	---------------------	---------------------

中塚 農政課 担当係長	
-------------------	--

【出入り口】

食と農業農村振興審議会における地区部会の設置規程

第1 設置の目的

「長野県食と農業農村振興の県民条例」に基づいて策定する「長野県食と農業農村振興計画」（以下「振興計画」）の策定及び県が実施する食と農業・農村に関する施策に関し、各地域の県民の意見の反映と、地域の特性を生かした地域別の発展方向の策定及び検証を行うため「長野県食と農業農村振興審議会」に地区部会を設置する。

第2 地区部会の設置

「長野県食と農業農村振興の県民条例」に規定されているとおり、地方事務所の管轄区域ごとに、部会を設置する。

第3 地区部会の組織

- (1) 地区部会は、部会委員10人程度で組織する。
- (2) 地区部会の部会委員は、農業者、消費者、農業関係団体、農業委員、市町村職員などから、地方事務所長が任命する。
- (3) 部会委員の任期は2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第4 会議の運営

- (1) 地区部会には部会長を置き、部会委員が互選する。
- (2) 部会長は、会務を総理し、部会長に事故があるときは、あらかじめ部会長が指名した部会委員がその職務を代理する。
- (3) 会議は、部会長が招集し、部会長が議長となる。
- (4) 部会長が認める場合は、部会委員以外の者がオブザーバーとして協議に参画することができる。
- (5) 会議は、部会委員の過半数の出席がなければ開くことができない。
- (6) 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- (7) 会議は、原則として公開とする。
- (8) 地区部会の事務局は、地方事務所農政課に置くこととし、事務局長は、地方事務所農政課長の職にある者が充たる。

第5 地区部会の任務

地区部会は、次に掲げる事項について検討し、部会長は「長野県食と農業農村振興審議会」に報告するものとする。

- (1) 県が策定する振興計画及び県が実施する食と農業・農村に関する施策に関する地域の意見の集約
- (2) 県の振興計画に基づき、地域の特性を踏まえた「地域別の発展方向」の策定及び検証
- (3) その他、食と農業及び農村の振興に関し、地域で必要な事項

(補 足)

この規程に定めのあるもののほか、会議の運営に関して必要な事項は、事務局が会議に諮って定める。

(附 則)

この規程は、平成19年1月19日から施行する。

平成 24 年度長野地域の取組実績（案）

～ 新たな農業ビジネスの創出による活力ある善光寺平農業の構築と元気な農村づくり ～

1 重点推進方策ごとの取組実績

■ 善光寺平の「売れる」果樹産地づくり

- ①りんご中生種としてニーズの高い「秋映」「シナスイト」と「シナゴールド」、種なしで皮ごと食べられる商品性の高いぶどうの「カガパプル」「シャインマスカット」の産地化を推進しました。
- ・りんご「秋映」「シナスイト」「シナゴールド」の栽培面積 H23：630ha ⇒ H24:678ha
 - ・ぶどうの「カガパプル」の栽培面積 H23：57ha ⇒ H24:67ha
 - ・ぶどうの「シャインマスカット」の栽培面積 H23：44ha ⇒ H24:55ha
- ②生産者の高齢化に対応した果樹園地の経営継承システムの構築に向けた取組を推進するとともに、一時的な樹園地の維持管理を行う組織を支援しました。
- ・樹園地継承検討会の開催 1回
 - ・一時的な樹園地の維持管理の支援 1団体、1.3ha
 - ・りんご新しい化栽培に改植したリース園地の整備 67a
- ③りんご新しい化栽培の早期普及に欠かせない台木生産を加速させるため、生産者団体や苗木生産業者に対する技術指導を行い、フェザー苗木の安定供給を進めました。
- ・フェザー苗木の生産 H23 秋・H24 春植用 3,724 本 ⇒ H24 秋・H25 春植用 9,056 本
 - ・フェザー苗木生産業者への巡回技術指導 7回、4業者参加
 - ・フェザー苗木安定供給のための中間検討会の実施 1回、4業者参加
 - ・新しい化栽培用台木生産組織の巡回技術指導 6回、2生産組織
- ④りんご新しい化栽培実施ほ場を活用して、単収増加・省力化等のメリットを広く周知し、新しい化栽培の導入を推進しました。
- ・JA技術員を対象に着果管理についての技術者検討会 1回
 - ・青年農業者、取組農家等を対象に園地巡回・視察検討会 4回

■ 西山地域等の中山間地域の活性化の推進

- ①耕作放棄地解消計画に基づく復旧利用を進めるため、交付金等を有効に活用し、そば等の地域特産物の生産拡大を図るとともに、遊休農地解消プロジェクトチームによる巡回活動等を通じて耕作放棄地の解消を進めました。
- ・遊休農地解消面積 H23：82ha ⇒ H24:73ha
 - ・耕作放棄地再生利用緊急対策交付金の活用 5市町村、復旧 85か所 21.2ha 交付金 20,036千円
 - ・遊休農地解消プロジェクトチームによる巡回活動（全9市町村、6月実施）
 - ・西山大豆栽培講習会3回、延べ168名参加
- ②イノシシやシカ、ハクビシン等の中型獣による農作物被害の軽減を図るため、関係機関と連携し、捕獲・駆除を実施するなどの体制整備や学習会の開催、防護柵の設置等の集落ぐるみの総合的な取組を支援しました。
- ・野生鳥獣被害対策に関する学習会、現地調査等支援 42回、延べ1,074人参加
 - ・被害防止モデル展示圃の設置（須坂市、坂城町）
 - ・鳥獣被害防止総合対策交付金等による侵入防止柵の設置 5市町村 総延長61km
- ③中山間地域での営農を継続し遊休農地の発生を防ぐため、省力で収益性の高い薬草や山菜等の導入を進めるほか、中山間地域農業直接支払事業（第3期対策）の活用により中山間地域の農村集落の活性化を支援しました。
- ・中山間地域農業直接支払事業 協定数218、対象面積 1,490 ha
 - ・薬草栽培面積 トウキ H23：88a ⇒ H24:67a、ジャクヤク H23：63a ⇒ H24:63a
- ④グリーン・ツーリズムを促進するため、中山間地域の資源を活かし、小・中学生の農家民泊や修学旅行の受入れなど、都市と農村との交流拡大に向けた情報提供を行いました。
- ・都市農村交流人口 H23：41,176人 ⇒ H24:44,652人
 - ・小中学校の宿泊農業体験活動実施状況（平成24年度） 2市町村 7,586人、延べ8,822泊

■ 地域農業を担う多様な担い手や集落営農組織の育成

- ①人・農地プランの策定を推進し、新規就農支援関連事業の活用により、新規就農者等の確保と定着を推進しました。
- ・人・農地プラン策定地区数 39件
 - ・青年就農給付金（準備型）給付対象者数 26人
 - ・青年就農給付金（経営開始型）給付対象者数 38人（うち夫婦2組）
- ②各種講座の開催を通して若手農業者の農業技術の習得と総合的な経営管理能力の向上を支援しました。
- ・北部地区学習会を開催し、りんご、水稻の技術習得支援を行った。

- ・ニューファーマー講座の開催（作物コース2回7人、りんごコース5回18人、ぶどうコース6回11人、野菜コース3回5人、簿記コース5回15人）
- ③認定農業者を確保するため、親子での共同申請や就農後5年を経過した若手農業者の認定を推進しました。
 - ・認定農業者数 H23年：763人 ⇒ H24:772人 (H24.9月末)
- ④集落営農を推進するため、農業委員等との情報共有を進め関係機関・団体と連携し、集落の合意形成に向けた取組みやリーダーの育成等を支援しました。また、集落営農を志向する集落をモデル集落として設定し、集落営農開始に向けた組織運営や生産体制の整備を支援しました。
 - ・集落営農を推進するため、関係機関との連携を図るとともに集落独自の取組に対し、状況把握に努めた。また、モデル集落の取組が円滑となるよう支援した。
 - 集落営農的活動への支援 2集落（長野市山新田、長野市真島）
 - モデル集落への支援 1集落5回（平）
 - 任意組織の法人化に向けた支援1集落5回（長野市豊栄）

■ 地域の特産品を活かした農業・農村ビジネスの創出

- ①農畜産物の販路拡大や高付加価値化を目指す農業者と食品加工業者、レストラン・ホテル、流通業者等との交流会等の開催を通じ、情報発信や商品提案を促進するとともに、実需者の求める新たな産地づくりを支援しました。
 - ・農業生産者のための営業力セミナー 30人参加
 - ・北信州うまいものまるごと大商談会の開催（8月21日 実需者28社参加、生産者・加工業者110者参加、成約件数50件）
 - ・農産物“商品アピール力”向上セミナーの開催（7月2日25人、8月2日25人、1月17日21人参加）
 - ・麻布十番「信州農林産物まつり」（6月1団体、9月2団体、11月1団体参加）
- ②地域の農業と食文化の継承を通じた食育活動を進めるため、食育推進リーダーの取組を支援するとともに、小中学校への「旬ちゃん」訪問により、各地の郷土食の継承や食農教育への積極的な取組を支援しました。
 - ・農村女性ネットワーク信州新町「信州の食と農のセミナー」開催（長野市信州新町小学校、3回延べ136名参加）
 - ・西山大豆を育てる会（大豆は種～栽培管理～収穫～豆腐加工）（長野市中条小学校、6回、延べ72参加）
 - ・子ども農業体験活動支援事業（千曲市、1団体）
 - ・旬ちゃんの学校訪問（小学校等2校）
 - ・食育フォーラムの開催
- ③原産地呼称管理制度や信州伝統野菜認定制度、地域の特色があり品質が高い農畜産物について、おいしい信州ふード（風土）宣言のPR等により、その生産と販路の拡大を支援しました。
 - ・原産地呼称管理制度（米）認定 2名（法人）4件 12ha
 - ・「おいしい信州ふード（風土）宣言」説明会の開催 3回 74名参加
- ④農産物生産情報の提供を通じ、学校給食における県産農産物の利用拡大を推進しました。
 - ・学校給食用県産農産物利用率 H23：48.2%⇒H24:46.8%（県下10地区の中で第1位）
 - ・新たな一次加工品の開発 5件（冷凍スイートコーン、切干大根、トマトの水煮等）
 - ・広域流通マッチング件数 72件（冷凍液卵、スイートコーン、円揚げ、トマト、小松菜、カット野菜等）
- ⑤消費者から期待の高い農産物直売所や農産加工組織の円滑な運営を支援しました。
 - ・2012信州ぐるっと“食と収穫”の祭典スタンプラリー 参加直売所38か所
 - ・ふるさと知事ネットワーク農産物直売所交流事業（福井県との交流販売） 直売所1か所参加（信濃町）

■ 自然と共生し環境負荷軽減につながる環境にやさしい農業の推進

- ①ながの環境農業&Eco実践運動（平成22～24年度）により、環境負荷軽減につながる農業の実践を進めるとともに、消費者の環境農業実践ほ場への訪問により、環境農業への理解と共感の輪の拡大を進めました。
 - ・産地交流会の開催（10月、高山村、13名参加）
 - ・表彰事業の実施（2月、ながの環境農業&Eco大賞、4事例）
 - ・ながの環境農業&Eco実践運動推進大会の開催（2月、長野市東部文化ホール、66名参加）
- ②土壌分析等を活かした過剰施肥の抑制を進めるとともに、堆肥等の有機質資材の施用による土づくりや病害虫防除のための研修会等を開催しました。
 - ・信濃町認定農業者協議会において土づくり学習会を開催（1回）
- ③環境保全型農業直接支援対策の活用推進や信州の環境にやさしい農産物認証制度等の取得にあわせ、エコファーマー認定者の拡大を進めました。
 - ・環境保全型農業直接支援対策 申請者32名、対象面積32.8ha
 - ・信州の環境にやさしい農産物認証 60件、154ha
 - ・エコファーマー認定件数 新規認定36件、再度認定249件

- ④環境農業農産物の販路拡大として、情報発信（ながの環境農業&E c oだより等）やマルシェへの出店、学校給食への農産物供給を支援しました。
- ・商談会の開催（2回）
 - ・長野地方事務所ホームページの「ほっとスタッフブログながの」で、ながの環境農業&E c oの取り組みを紹介（2回）
- ⑤農業水利施設を有効利用した小水力発電の推進により自然エネルギーの普及拡大を図るため、次の取組を行いました。
- ・土地改良区が行う実施計画策定等に対する支援（小水力等農村地域資源利活用事業）里島地区（長野市）
 - ・関係機関（国土交通省、電力会社）との調整 里島地区（長野市）

2 施策達成目標に関する取組実績

指標項目	H17 基準年	H24 目標年		平成 24 年度具体的に取組んだ事項 〈対象地域〉・[連携機関]
		計画	実績	
新規就農者 (40歳未満)	18人	25人	52人	○就農相談活動を充実し新規就農者の確保を進めました。 ○若い農業者及び就農希望者の技術力・経営力・課題解決力の向上を支援するため、ニューファーマー農業講座や里親研修等を実施しました。 ○新規就農者の経営安定に向けた個別課題に対する支援を行いました。 〈全域〉・[JA、市町村、農業委員会]
認定 農業者数	764人	830人	768	○認定農業者を確保するため、親子共同での申請や若手農業者に対する経営改善計画の作成を支援しました。 ○認定農業者を育成するため、若手農業者に対する経営管理能力向上のため各種研修会を開催しました。 〈全域〉・[地域農業再生協議会、営農支援センター]
集落営農組 織数	4組織	54組織	16組織	○集落営農を推進するため、農業委員との意見交換や研修会を開催しました。 ○関係機関・団体が連携し、課題解決に取り組むリーダーの育成を進めました。 ○モデル集落を設定し、組織運営や生産体制の整備等、集落営農設立に向けた合意形成を支援しました。 〈長野市、高山村〉・[JA、市町村、農業委員会]
りんご3兄弟 栽培面積	329ha	700ha	678ha	○「単収向上・省力化・早期多収で収益向上」のメリットを広くPRし、新しい化栽培の普及を支援しました。 ○生産者団体と協力し、りんご新しい化栽培用台木の確保を推進しました。 ○「ナガノード」の適正樹勢への誘導及び適期収穫を進めました。 ○強い園芸産地育成事業や果樹経営支援対策事業を活用したリース園地整備を進めました。 〈長野市、須坂市、飯綱町、高山村他〉・[JA]
ナガノール 栽培面積	8ha	※62ha [45ha]	67ha	○県オリジナル品種「ガノール」の産地化及び裂果防止対策の普及による高品質安定生産の推進を支援しました。 ○強い園芸産地育成事業を活用した雨よけ施設の導入を進めました。 〈長野市、須坂市 他〉・[JA]
販売金額5 千万円以上 直売所数	8箇所	15箇所	19箇所	○地産地消の拠点となる直売所の生産者の確保等を支援しました。 ○農産物の品質向上や環境にやさしい農業への組織的な取り組みなどを支援しました。 〈長野市、飯綱町 他〉・[JA、市町村]
農産加工 グループ数	27グループ	29グループ	41グループ	○地域農産物の高付加価値化を図るため、米粉等を素材とした新たな農産加工品の開発を目指す意欲あるグループを支援しました。 ○農産加工グループの経営の安定化等、持続的な発展を図るため、人材の確保・育成を支援しました。 〈全域〉・[JA、市町村]
エコファーマー 認定人数	317人	※3,970 人 [1,500 人]	3,061	○エコファーマーの導入計画の実践を進めるため、健全な土づくり、化学肥料・化学合成農薬の削減等の技術の啓発を行い実践力向上を支援しました。 ○認定期間が終了する農業者に対する技術指導等を通じて、再認定に向けての取り組みを支援しました。 ○エコファーマー等の環境にやさしい農業への取り組みを販売に生かす活動を支援しました。 〈全域〉・[JA、市町村]
都市農村 交流人口	34,600 人	38,000 人	44,652 人	○農産物収穫体験等の受け入れに係る情報発信により、グリーンツーリズムでの来訪者の誘致を支援しました。 〈長野市 他〉・[JA、市町村、関係団体]
遊休農地の 解消面積	—	250ha	248ha	○遊休農地の解消のため、交付金を活用した土地条件の整備等を推進しました。 ○遊休農地解消プロジェクトチームによる巡回活動や遊休農地マッチングコーディネーターによる規模拡大を目指す農業法人等への情報提供を行い、遊休農地の解消を進めました。 〈全域〉・[JA、市町村、農業委員会]

・H24 計画値欄の上段は、H24 計画目標値、下段[]は当初目標値

・※はH22 実績及びH23 実績見込み及び今後の方針を踏まえ、24 年度当初目標値を上回る単年度努力目標数値を設定

3 主要品目の生産計画と推進方向

主要品目	H17 基準年	H24 目標年		H24 年産の状況 (対象地域)・[連携機関]	
		計画	実績 (暫定値)		
米	作付面積(ha)	4,420	3,762 [4,000]	4,079	<ul style="list-style-type: none"> ○湛水直播栽培技術等の普及による低コスト稲作の推進 ○良食味を目指した施肥管理等による高品質生産の推進 ○発生予測に基づく病害虫防除の推進 ○温暖化に対応した高温登熟障害対策の推進 〈長野市、千曲市、坂城町、信濃町、小布施町〉 [JA、市町村、技術導入団体、生産組合]
	10a 収量(kg)	607	566 [563]	560	
	生産量(t)	26,900	21,284 [22,500]	22,866	
りんご	作付面積(ha)	3,940	3,772	3,674	<ul style="list-style-type: none"> ○単収向上・省力化・早期多収に直結できる新しい17栽培を生産者へPR ○「秋映」「ナイスイト」「ナガール」の産地化・高品質化推進を支援 ○新しい17栽培推進のためのフェザー苗生産技術支援と供給の安定 ○生産者団体と協力し、りんご新しい17栽培用台木の確保を推進しました。 〈長野市、須坂市、飯綱町、小布施町、千曲市、高山村、坂城町〉 [JA、各地区果樹産地構造改革協議会、園芸振興推進協議会]
	10a 収量(kg)	2,046	2,190	1,770	
	生産量(t)	80,600	82,613	65,025	
ぶどう	作付面積(ha)	1,020	1,028	968	<ul style="list-style-type: none"> ○商品性の高い「ガバール」「シャインマスカット」の産地化推進 ○種なし需要に応える「巨峰」の無核化の推進 ○醸造用ブドウの生産安定の推進 〈須坂市、長野市、小布施町、飯綱町、千曲市、坂城町、高山村〉 [JA、各地区果樹産地構造改革協議会、園芸振興推進協議会]
	10a 収量(kg)	1,324	1,334	1,124	
	生産量(t)	13,500	13,710	10,876	
アスパラガス	作付面積(ha)	174	177	130	<ul style="list-style-type: none"> ○県オリジナル品種等の導入推進 ○雨よけ施設導入による前進出荷と生産の安定・拡大 ○茎枯病対策の徹底による単収の向上 ○新植・改植栽培者の栽培技術の向上支援 〈長野市、須坂市、小布施町、飯綱町、千曲市、坂城町〉・[JA、園芸振興推進協議会]
	10a 収量(kg)	229	308	96	
	生産量(t)	398	545	125	
トルコギキョウ	作付面積(ha)	16	17	11	<ul style="list-style-type: none"> ○6～11月までの高品質安定生産の推進 ○単収向上と省力化に向けた2回切り作型の推進 ○栽培・出荷ロス削減に向けた作型・作付規模及び栽培技術の見直し ○ロゼット回避技術と省エネ対策による抑制作型の拡大及び品質向上 〈千曲市、長野市、須坂市、飯綱町、坂城町〉・[JA、園芸振興推進協議会]
	10a 収量(本)	35,688	36,447	23,509	
	生産量(千本)	5,710	6,196	2,586	

・H24 計画値欄の上段は、H24 計画目標値、下段[]は当初目標値

TOPIX

「北信州うまいものまるごと大商談会」の開催

北信州で生産される農産物や加工食品の新たな市場及び販路開拓を支援するため、百貨店、スーパー、ホテル、飲食店などと、農業生産者や食品加工業者などとの商談会を平成24年8月21日に長野市内のホテルで開催しました。

今回は、買い手であるスーパーや宿泊業者などがブースを設け、売り手である生産者等が商品を持ち込む「逆商談会形式」により、買い手側が28社33ブース、売り手側が110事業者・団体が参加し、商談数は425件で約50件の商談が成立しました。

参加いただいた企業などへのアンケートでは、「よい情報がたくさんいただけました。」「多くの発見がありました。」などのご感想をいただきました。

今後もこのような機会を設営していきたいと思えます。



食と農業農村振興計画(長野地域) 達成指標別進捗状況(平成20～24年度)

達成指標は10指標。評価時点は平成25年3月31日現在。

H24年度目標値 に対する達成率	100%以上	90%以上 100%未満	80%以上 90%未満	50%以上 80%未満	50%未満
指標項目数	5	3	0	1	1
【割合】	【50%】	【30%】	【0%】	【10%】	【10%】
(当初のH24目標値に 対する達成率)	6	3	0	0	1
【割合】	【60%】	【30%】	【0%】	【0%】	【10%】

[平成24年度目標を達成した指標項目数 4項目、当初目標に対しては6項目]

(上段:目標値、下段:実績値)

方向	項目	平成17年 (基準年)	平成19年	平成24年 (目標年)				H24実績値 /H24目標値	
				平成20年	平成21年	平成22年	平成23年		
①多様な担い手が元気に活躍する農業・農村	新規就農者(単年度)	—	—	25	25	25	25	208.0%	
	40才未満	18	20	18	24	25	29		
	認定農業者数	—	—	820	825	830	830	830	92.5%
	764	812	835	845	790	763	768		
集落営農数	組織	—	—	21	30	39	47	54	29.6%
		4	10	10	10	11	15	16	
②競争力のある付加価値の高い農畜産物を生産する農業・農村	りんご3兄弟栽培面積	—	—	499	542	587	641	700	96.9%
		329	466	523	572	583	630	678	
ぶどう「ナガノパープル」栽培面積	h a	—	—	23	29	34	53	※[45]	108.1%
		8	16	22	40	45	57	67	
③消費者と「食」の絆を結び豊かな食生活を育む農業・農村	販売金額5千万円以上の直売所数	—	—	11	15	15	15	15	126.7%
		8	11	11	13	15	17	19	
農産加工グループ数	グループ	—	—	29	29	29	29	29	141.4%
		27	27	27	27	30	35	41	
④環境と調和し地域が輝く元気な農業・農村	エコファーマー認定人数	—	—	1,500	1,500	※3,640	3,760	※[1,500] 3,970	77.1%
		317	803	2,961	3,462	3,659	3,589	3,061	
	遊休農地の解消面積	h a	—	—	30	124	183	250	250
	—		18	30	50	93	175	248	
都市農村交流人口	人	—	—	36,100	36,500	37,000	37,500	38,000	117.5%
		34,600	37,467	42,353	40,610	39,060	41,176	44,652	

注) 目安値欄に※が付いた数値は、実績が目標年数値を上回ったため、実績及び今後の方向等を踏まえ設定した単年度努力目標値である。[]内は当初目標値。

食と農業農村振興計画に係る地域プロジェクトの取組実績

長野農業改良普及センター

1 課題名

りんご新しい化栽培推進プロジェクト

2 新しい化栽培とは

定植3年目から収量1～2 t/10 a (目標収量 定植5年目 4.5 t/10 a)を早期に収穫でき、低樹高(2.5m位)で作業効率の高い(目標労働時間 323 時間/10 a)栽培技術。

3 フェザー苗の育成手順

M9 台木から取木し

1年目：M9 苗育成

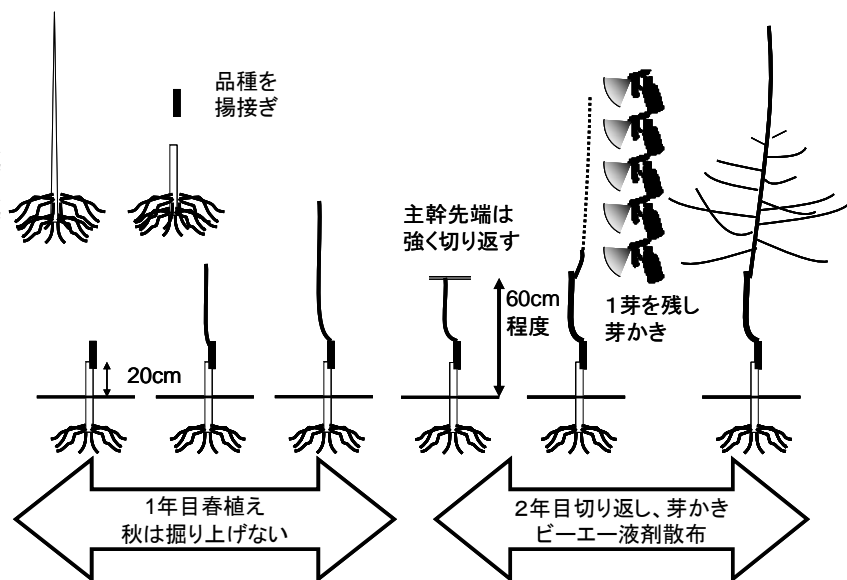
2年目：接木当年苗育成

3年目：フェザー苗育成

4年目：定植1年目

6年目：定植3年目

8年目：定植8年目



4 取組成果と課題解決に向けた取り組み

(1) 成果

ア フェザー苗供給体制の整備

(ア) M9 苗 2,700 本生産

(ア) フェザー苗を 9,500 本生産 (品種：シナノスイート、秋映)。

イ 早期成園化の推進

フェザー苗による改植面積の増加 (24 年度 11.3ha)

(2) 課題解決に向けた取り組み

(ア) 苗木育成ほ場での凍害防止対策の実施

(イ) 定植3年目のシナノスイートの労働時間調査 (113.6時間/10 a)

(ウ) 秋映の果実日焼け防止対策の実施

(エ) フェザーの発生確保 (目標フェザー本数 10 本/苗)

5 管内の栽培状況

項目	H17年度 (基準年)	H22年度 (実績)	H23年度 (実績)	H24年度 (実績)
新わい化栽培への改植面積(ha)	当年度	8.0	15.4	11.3
	(累計)	18.5	33.9	45.2
りんご3兄弟栽培面積(ha)	329	583	630	678

注：りんご3兄弟 シナノスイート、秋映、シナノゴールド



写真1 苗木業者中間検討会
(平成24年9月 小布施町)



写真2 植付後3年目の着果状況
(平成24年10月 飯綱町 シナノスイート)

食と農業農村振興計画に係る地域プロジェクトの取組実績

所属： 長野農業改良普及センター・長野地方事務所

1 課題名 「農産物の実需者への供給推進農商工連携プロジェクト」

2 主な取組結果

- ・伝統野菜、減農薬カラーピーマンの生産安定や拡大のため、新規栽培者の掘り起し、現地巡回指導、小布施丸なすにおいては台木の検討等を行った。
- ・本年度より取引の始まったシソは栽培、取引の支援を行った。
- ・夏出荷作型のハウレンソウは低標高地の現地事例調査、試作を行った。
- ・北信農業改良普及センター、北信・長野地方事務所と共催で逆商談形式の商談会を開催した。「買い手」は百貨店、スーパー、飲食店、宿泊業者、食品加工業者、その他で30ブース。「売り手」は長野、北信管内を中心とした農業者と加工業者100名の参加となった。商談数425件、アンケートより成約数は約50件となった。商談会前には生産者を対象に「営業力向上セミナー」を開催し、商談会へ臨むための準備等の勉強会を行った。
- ・全3回の農産物“商品アピール力”向上セミナーを開催し、写真撮影、キャッチコピー、インターネットを活用して自らの商品をアピールするためのテクニックを学ぶ機会を設けた。

3 目標に対する取組成果と課題

(1) 成果

- ・伝統野菜は品目ごとに生産拡大に向け、動き出している。
- ・減農薬カラーピーマンは生産量は1割増となった。平成25年度は生産者も一人増加する。
- ・漬物加工業者へのシソ出荷は予定通り行われ、来年度の取引につながった。
- ・夏出荷作型ハウレンソウが低標高地でも生産可能であるということを確認し、その栽培、出荷方法を調査することができた。
- ・商談会の開催により、自ら積極的に実需者に商品を売り込むことで自分の商品への評価や経営を見つめなおしたり、実需者の求める商品を直に聞く機会となった。また、これにより取引の始まった生産者は新たな販路を開拓したり、新たな品目の作付けを始めた。
さらに、取引を開始しながら実需者からアドバイスや指導を受け、商品を改善し、売り上げを拡大している事例も見られている。

(2) 課題

- ・実需者の要望（品質、時期、量）に対応できる伝統野菜等農産物の生産。
- ・原価計算に基づいた価格提案、出荷量、出荷時期、品質などを明確に説明する力と商品の活用方法、ターゲット、魅力を相手の立場に立ってアピールする力が必要な生産者が多い。
- ・注文に応じた品質の商品を必要な時期に必要な量、納品する能力やシステムが整っていないこと。

4 今後の改善方向等

- ・農協等と連携しながら引き続き産地づくりを進めてゆく。
- ・商品提案書の作成を通して、販路拡大を望む生産者の商品をアピールする力を養う。
- ・さらに実需者と交流したり、商品の提案をする場を設ける。
- ・生産者同士の協力や連携による足腰の強い農業経営を目指す。

5 課題に関連する単年度達成目標の状況

項目	H17年度 (基準年)	H22年度 (実績)	H23年度 (実績)	平成24年度		実績に対する評価等
				計画	実績 (見込)	
主体的に販路拡大、契約取引に取り組む農業者、団体	—	試行5 取引1	取引14	取引6	取引23	目標達成率380%



漬物加工業者向けシソ栽培（千曲市）
栽培指導（左）
出荷の様子（右）



小布施丸なす（小布施町）
巡回指導（左）
漬物加工業者産地見学（右）



低標高地夏出荷作型圃場視察（長野市）
（左）
試作試験播種作業（信濃町）（右）



農産物“商品アピール力”向上講習会
「写真撮影の方法」（左）
「インターネットで販売する方法～基礎編～」（右）



「北信州うまいものまるごと大商談会」
逆商談形式で商談（左）

商談の結果、スーパーでコーナー設置（右）

平成25年度長野地域実行計画の具体的取組方策
 ～新・感・鮮でつなげよう長野のくだもの 人と技で支えよう長野の農業・農村～

重点戦略ごとの取組事項

重点戦略1：地域の特色を活かした多様な経営体の確保・育成

【達成指標】

目標指標	H22 基準年	H25 計画	H29 目標年
40歳未満の新規就農者数（単年度）	28 人	34 人	34 人
新規就農者のうち果樹栽培者数	21 人	27 人	27 人
農作業支援者数（延人数）	2,278 人	2,600 人	3,000 人

○ 県や市町村、農業団体等が連携した支援体制づくり

- ・長野地域就農促進会議の開催（2回）や須高農業振興会議の開催（6回）

- ・長野地域就農促進会議 開催時期：7/11 場所：ホテル信濃路
1/22 : 合庁 503 会議室
会議内容：就農情報の提供他
- ・須高農業振興会議 振興会議の目的：担い手育成と農地（樹園地）継承システムの構築
事業内容：
 - 担い手育成と樹園地継承検討会
 - 全体検討会（市町村、市町村農業委員会 JA、農業開発公社、普及センター）の開催 3回（5/10・8月・11月）
 - 担い手の技術習得と仲間づくり等
 - 須高担い手セミナーの開催
対象：新規就農者・定年帰農者・里親研修生
果樹コース10回（4/10、4/26、5/2、5/29、7/25開催）
受講者 47名
アスパラガスコース8回（4/25、5/20、6/12、7/17開催）
受講者 10名
 - 農業研修生と青年クラブとの視察研修（8/27）
 - 須高果樹生産振興研修会（1/10）
 - 農業簿記研修（1/15・16・17）
 - 須高青年農業者情報交換会（1/29）
 - 里親の資質向上研修会（8/20 須坂市シキヤ）
 - 担い手育成視察研修（7/18 生坂村 18名参加）
 - 担い手の誘致
 - 信州須坂・小布施・高山就農パンフの作成（10,000部）
 - 就農フェア参加による担い手の誘致 7/20 相談者30名
（9/14、10/26、1/26、2/2参加予定）
 - 樹園地継承システムの検討
 - 検討会の開催 2回

- ・新規就農スマート誘致システムの構築（モデル地区1か所）

- ・モデル地区 須高地区、設置時期8月

枠内は、
具体的な取組内容

○ 新規就農者の確保に向けた取組の充実

- ・新規就農相談会等の開催（3回）や新規就農里親研修の実施、青年就農給付金（準備型）を活用した研修による支援

- ・新規就農相談会等の開催 開催時期：5/19 相談者 13名・10/5・1/26
場所：長野合庁別館大会議室・松本市勤労者福祉センター
- ・新規就農里親研修 実施時期：4月～3月 研修生 1年目 7名 2年目 6名
市町村別研修生数：長野市2名 須坂市2名 信濃町1名 坂城町1名 小布施町6名
高山村1名
- ・青年就農給付金（準備型）対象者説明会 開催時期：9月 場所：合庁会議室
- ・青年就農給付金（準備型）研修実施支援 7/12～8/2 募集

○ 新規就農者や定年帰農者等への技術習得や経営管理能力の向上に向けた支援

- ・ニューファーマー研修、作目別セミナー等研修会の開催

- ・ニューファーマー研修 開催時期：7/11 27名・10月・2月 場所：合庁他
内容等：大規模果樹栽培の取り組み・マーケティングなど
- ・作目別セミナー等研修会 開催時期：5月～2月 場所：管内
内容等：リンゴ・ブドウ・水稲・野菜・花きについての基礎知識など
開催状況：リンゴ 2回 10名 ブドウ 2回 12名 野菜 1回
水稲 1回 6名

- ・経営管理講座の開催（1講座、5回）

- ・経営管理講座の開催 開催時期：1月 場所：合庁 内容等：複式簿記の基礎知識

- ・青年農業者給付金（経営開始型）の活用による支援（40名）

- ・給付対象者への提出書類作成等の支援
- ・給付対象者説明会の開催 長野市：5/2 須高地区：6/4

○ 人・農地プランの実現やリース方式等による樹園地を継承する仕組みづくりに向けた支援

- ・人・農地プランの策定推進と実現に向けた取組の推進

- ・行動計画の策定（6月上旬）
- ・市町村・JA等担当者会議の開催による推進（5月27日）
- ・地域支援チームによる市町村巡回（6月上旬、全9市町村）
- ・地域にあった今後の果樹産地維持に向けた検討（検討会2地区）

開催期日：1月 開催場所：長野市山新田 内容：遊休果樹園地の受皿体制の検討
3月 長野市真島 各集落での取り組み状況検討

- ・リース方式等による樹園地継承システム構築の支援（リース園地整備1地区）

- ・リース園を整備（長野市1か所）実施見込み

○ 農作業支援者の確保及び技術の向上に向けた支援

- ・支援者組織へのアンケート調査を実施し、支援者及び被支援者両者の実態等を把握（アンケート調査1回）

- ・農作業労働力補完取組事例調査の実施（5月）

重点戦略2：未来に挑戦し続ける競争力の高い果樹産地づくり

【達成指標】

目標指標	H22 基準年	H25 計画	H29 目標年
県オリジナル主要品種栽培面積	706ha	899ha	1,070ha
りんご新わい化栽培面積	18.5ha	56ha	100ha
無核（種なし）ぶどう栽培面積	304ha	444ha	620ha
畑地かんがい施設の整備面積（期間内整備量）	308ha (H18～H22)	167ha	403ha (H25～H29)

○ 消費者ニーズの高い品目・品種への転換に係る支援

- ・果樹経営支援対策事業等による改植の促進（オリジナル品種栽培面積 899ha）
- ・各果樹産地構造改革協議会（JA毎に設置）を通じて事業への取り組みを推進
- ・栽培技術の向上を図るための講習会等の開催
- ・りんご新品種「シナノホッペ」の品種検討会（JAちくま管内）10／下
- ・プルーン新品種「サマーキュート」の品種検討会（JA須高管内）9／中

○ りんご新わい化栽培に必要な苗木の確保支援

- ・フェザー苗の予約生産に向けた苗木業者とJAとの調整（調整会議1回）
- ・県主催による需給調整会議を開催。1月頃
- ・種苗の生産状況確認と苗木生産の技術指導（巡回指導月1回、検討会2回）
- 管内6苗木業者に対する優良苗生産指導を5月から月1回（5月14日、6月17日、7月16日）行い、中間、総合検討会を実施。凍害回避の技術指導。
- ・わい性台木の安定生産と苗木業者とのマッチングの支援（マッチング1回）
- ・1農業団体に対するM9台木育苗支援5（5月14日、6月17日、7月16日）～12月、苗木業者とのマッチング（1回 5月14日）
- ・モデル圃の活用等による新わい化栽培への啓発と技術指導（講習会2回）
- 優良モデル園において労働制、収量性を調査し、収穫時、せん定時に講習会（9月～10月）を実施して新わい化栽培の有効性を啓発する。

○ ぶどうの高品質生産のための施設化の推進や、消費者ニーズに対応した無核化栽培の普及

- ・高品質な生産に向けた雨よけ施設の導入（1地区）
- ・JA単独事業により導入（JAちくま 235a）
- ・栽培技術の高位平準化のための講習会等技術指導の実施
- ・芽かき講習会 ちくま5月7日、9日、須坂市井上5月13日、長野市東福寺5月15日、長野市豊野5月15日、長野市松代5月17日、延べ220人
- ・短梢栽培技術の向上を図るための講習会の開催（無核化面積444ha）
- ・芽かき講習会 ちくま5月16日、長野市東福寺 15日、長野市松代17日、須坂市井上22日、須坂市須坂22日 延べ200名

○ ももや特産果樹（あんず、プルーン等）の高品質・安定生産に向けた取組への支援

- ・もも品種のシリーズ化を推進（品種検討会1回）
- ・7～8月に実施予定

- ・あんず・プルーンの県オリジナル品種の栽培技術向上のための講習会の開催（講習会 5 回）
- ・あんず 「信州サワー」等病虫害防除 松代 4 月 10 日 30 人、摘果 松代 4 月 30 日 38 人、信州サワー新梢管理講習会（夏 7 月 22 日千曲市 85 人、松代 7 月 23 日 23 人、秋）、せんだ講習会（12 月）

- ・ブルーベリー全国産地シンポジウムの開催支援（5 月、信濃町）
- ・2013 ブルーベリー産地シンポジウム in 信州・信濃町（5 月 31 日～6 月 1 日）開催支援 国内外参加者 516 人、スタッフ約 100 人

○ 効率的な果樹経営に向けた生産基盤の整備(畑地かんがい施設等)への支援

- ・県営ため池等整備事業の実施（日滝原地区（須坂市）：管路工（更新）L=0.9km）
- ・幹線 4－2 号管路工事：6 月入札公告中

- ・県営かんがい排水事業の実施（豊野地区（長野市）：揚水ポンプ更新 1 か所着手（～H26））
- ・揚水機場 2 号ポンプ改修工事：7 月入札公告予定

重点戦略 3：恵まれた立地条件を活かした特色ある産地づくり

【達成指標】

目標指標	H22 基準年	H25 計画	H29 目標年
アスパラガス夏秋どり比率	24%	28%	30%
トルコギキョウ秋出荷本数	286 千本	340 千本	420 千本
受精卵移植による黒毛和種子牛の生産頭数	70 頭	80 頭	100 頭

○ アスパラガスの茎枯病対策の徹底と夏秋どり作型の拡大に対する支援

- ・県単事業等による雨よけ施設の導入（1 地区）

- ・ J Aながの（長野市）で、雨よけ施設の導入見込み

- ・総合的な茎枯病対策の実施（展示圃 4 ヶ所、検討会 1 回）

- ・ J Aながの（長野市東和田）、J Aグリーン長野（長野市川中島）、J A須高（小布施町）、J Aちくま（千曲市）、計 4 カ所に耕種の防除＋体系防除展示圃を設置予定。

- ・各 J Aの現地指導会などで活用してもらうほか、9 月に 4 圃場巡回による現地検討会を予定。

- ・夏秋どり作型普及に向けた支援（モデル圃 4 ヶ所、検討会 2 回）

- ・ J Aながの（飯綱町 2 か所）、J Aグリーン長野（長野市真島）、J Aちくま（千曲市）に夏秋どりを実践する収量性向上モデル圃を設置。4 月 23 日に圃場巡回調査を各 J A、全農長野、農業技術課、普及センターで実施済。10～11 月頃再度成績検討会を予定。

○ きのこの新品種・新技術の導入と経営安定に向けた支援

- ・地域支援チームによる、技術、財務、労務改善のための支援（モデル J A、1 戸）

- ・ J Aグリーン長野管内の栽培農家 戸に対して、地域支援チームで技術、財務、労務改善の課題解決のための支援を 月～ 月まで行う。

- ・えのきたけの高温域培養適性品種の導入促進（モデル地区 1 培養センター）

- ・えのきたけ長菌 17 号の出願公表後に、導入促進を J Aグリーン長野管内 1 培養センター利用農家 5 戸で行う。（川中島種菌センター）

○ トルコギキョウの秋出荷作型の拡大に対する支援

- ・県単事業等によるモデルほ場の設置（1地区）
 - ・主に11月の安定出荷に向けた、大苗定植試験展示ほ（7月10日、8月10日予定）、千曲市に1ヵ所設置。関係機関により調査、現地検討予定。
 - ・開花調整技術（電照、加温等）の導入促進（試験ほ1ヶ所）
 - ・早期開花防止のための定植直後からのLED電照試験ほ、千曲市1ヵ所8月中旬設置予定。
- ・2回切り作型技術の普及（講習会2回）
 - ・JAグリーン管内を中心に、6月27日12人、8月に2回巡回等による講習を実施。

○ 実需者ニーズに対応した高品質な果菜類の生産拡大に対する支援

- ・トマト、キュウリ等の導入促進（研修会3回）
 - ・長野市内の若手果菜栽培者を中心に、現地視察研修7月16日6人、10月、11月の3回、果菜類のマーケティング、土づくり、栽培技術等に関する研修会を実施。
- ・カラーピーマンにおける天敵利用技術の普及（試験ほ1ヶ所、研修会6回）
 - ・JAながの飯綱カラーピーマン研究会を対象に天敵と微生物農薬、黄色LED等を利用したIPM試験圃を2ヵ所設置。研修会は6回予定、1～3回目は4月9日6人、5月10日3人、7月23日7人に実施済。今後9月、10月、12月に実施予定。

○ 受精卵移植による黒毛和種子牛の生産拡大に対する支援

- ・受精卵移植技術者の養成と技術向上（技術向上1名）
 - ・北信畜産酪農センター技術者1名
 - ・現地指導（年4回）
 - ・技術向上のための情報提供（年6回）
- ・酪農家に対する黒毛和種受精卵の移植支援（対象農家巡回1回）
 - ・北信畜産酪農センター管内でまとめて移植の推進
 - ・移植実施農場の巡回技術指導（10戸、各1回）
- ・病気に強い受精卵産子の生産支援（モデル農家1戸）
 - ・農場の巡回調査（年4回）
 - ・生産子牛の追跡調査（10頭）

重点戦略4：地域資源の活用と新たな付加価値の創出による魅力ある農業・農村づくり

【達成指標】

目標指標	H22 基準年	H25 計画	H29 目標年
ワイン用ぶどう栽培面積	29ha	35ha	40ha
商談会における成約件数	0件	6件	30件
信州の伝統野菜栽培面積	5.8ha	7.0ha	8.0ha

○ 遊休農地等へのワイン用ぶどう等の作付けを推進するため、基盤整備等への支援

- ・ワイン用ぶどう栽培者に対する技術向上支援（巡回指導）
 - ・高山村ワイナリー構想への支援(7月22日ワイナリー構想検討委員会出席)

- ・効果的な病虫害防除、施肥等による高品質なワイン用ぶどうの生産支援（巡回指導）
- ・ワイン用ぶどう品種の地域試作品種への指定支援

○ 自ら販路拡大や加工品開発等、経営強化を目指す農業者の取組への支援

- ・商談会（1回）や個別マッチングによる販路拡大機会の提供
 - ・「東北信うまいものまるごと大商談会 2013」と題して売り込み型商談会を開催し、生産者の新規販路開拓による経営向上と資質向上を目指す。開催に際しては地方事務所商工観光課、農改センター等と連携して行う。期日：8月29日（木）場所：ホテル国際21
- ・生産者の商品開発力、販売力強化のための講座の開催（2回講座）
 - ・「東北信うまいものまるごと大商談会 2013」参加希望生産者を対象としてとして開催する。第1回6月25日は商談シートの書き方、第2回7月12日はセールストークを学び、生産者の資質向上を目指す。第3回は7月23日、商談会の事前説明会を開催。
- ・実需の要望に対応できる生産者の育成や農商工連携、6次産業化を目指す農業者への支援
 - ・夏出荷作型ホウレンソウの試作試験圃場を設置し、長野市戸隠地区における出荷の可能性について調査する。また、農協、生産者、実需による検討を行う。
 - ・長野地域農業6次産業化推進協議会（仮称）の設置（9月までに）
 - ・長野地域農業6次産業化推進研究会の実施（6月以降、参加農家・企業募集等）

○ 需要に応じた伝統野菜の生産安定に向けた取組への支援

- ・安定生産のための技術講習会等の開催支援（講習会3回）
 - ・栽培技術講習会1回、栽培試験成績検討会1回（小布施丸なす、八町きゅうり）
 - ・生産者団体等の希望により講習会等への講師派遣を支援
- ・生産・販売組織の育成（伝承地栽培認定1組織）
 - ・信州伝統野菜須坂・小布施推進協議会の産地づくりと販路拡大の活動支援
 - ・松代一本ネギ伝承地栽培認定見込（9月）
- ・伝統野菜振興研修会の開催（1回）
 - ・須高伝統野菜研修会の開催（1回）
 - ・県委員会主催による産地情報交換会の開催

○ 「おいしい信州ふーど(風土)」ネット等による消費者等への情報発信や食育の推進を支援

- ・「おいしい信州ふーど(風土)」ネットへの旬の情報の掲載（6回）
 - ・食品産業タイアップ事業登録生産者を中心として6月～11月に掲載
- ・地域特産物のブランド化を図るため、原産地呼称管理制度や信州の伝統野菜認定制度の取組を推進するとともに消費拡大に向けた取組を支援
 - ・原産地呼称管理制度（米）について、昨年申請者3者に対し申請の声掛けを行う（4月）
 - ・プロの料理人による伝統野菜の料理提案会を開催し、長野市内の飲食店等に利用を呼び掛ける（7月31日）。
- ・小中学校等への「旬ちゃん」訪問により郷土食の継承や食育を推進
 - ・マーケティング室と連携し実施。

重点戦略5：中山間地域等の特性を活かした元気な農業・農村づくり

【達成指標】

目標指標	H22 基準年	H25 計画	H29 目標年
遊休農地の再生・利用面積(単年度)	43ha	184ha	184ha
そば作付面積	391ha	430ha	482ha
都市農村交流人口	39,060 人	42,700 人	48,500 人

○ そば、うめ等による遊休農地の解消に向けた取組への支援

- ・経営所得安定対策制度の活用によるそばの作付推進

・ソバ新品種「長野S8号」の導入（信濃町2ヵ所、2.8ha）

- ・遊休農地及び遊休化前農地におけるうめの栽培推進

・JAと連携した栽培推進のための啓発活動の実施

- ・耕作放棄地再生利用緊急対策交付金の活用による再生・利用の取組を支援

・市町村・JA等担当者会議の開催による推進（5月27日）

- ・生産・販売と一体的な再生活用の推進

・モデル地区の設定（坂城町、醸造用ぶどう）

- ・中山間地域における農村活力創出の支援

・モデル地区の設定（8月までに1ヵ所）

○ 地域の特徴的な品目の振興や集落ぐるみの野生鳥獣による被害防止活動に対する支援

- ・西山大豆適正管理の徹底と土壌病害対策の推進による品質向上（3等以上90%）

・西山大豆栽培講習会の開催（5～10月、3回、基本技術と立枯性土壌病害対策について）

・西山在来鞍掛豆（西山浸98-5）の作付検討（今年度は採種と品種のPR）

- ・西山地域での野菜セミナーの開催による販売農家の育成（新規10人）

・講座の開催（4月から11月、7回開催）

- ・地元農産物を雪室等で貯蔵して出荷時期を調整し、付加価値を高めて販売するための取組推進（1地区）

・飯綱町で取組。「雪ねむりりんご」の販売（4月6日～5月下旬、飯綱町横手直売所他）、「雪ねむりそば」の販売（5月～、TVショッピング、町内よこ亭で提供）

・雪室プロジェクトワーキンググループ会議の開催（5月13日、随時）

- ・野生鳥獣による被害を防止するため、市町村等と長野野生鳥獣害被害対策チーム（地方事務所、普及センター）が連携し、集落ぐるみのよる防除対策や捕獲対策、侵入防止柵の設置等、総合的な取組を推進

・長野野生鳥獣害被害対策チーム会議の開催（5月9日）

・長野地域鳥獣担当者研修会の開催による啓発等（5月23日）

・集落の被害対策自立支援（23集落）

・鳥獣対策事務関係担当者研修会の開催による啓発等（7月11日）

- 観光や食文化等農村資源を活用した生産者と消費者を結びつける都市農村交流の促進
 - ・地域農産物の消費拡大のためグリーン・ツーリズムなど都市と農村の交流の支援
 - ・H24 都市農村交流活動の実施状況調査の実施（5月）
 - ・地事ホームページで農作業体験やりんご狩り等の情報を提供
- 広域営農団地農道整備による交通アクセスの改善
 - ・豊野幹線の整備を推進（三念沢橋梁下部工 一式、宇佐美沢橋梁下部工 一式ほか）
 - ・三念沢橋梁右岸橋台工事：6月入札公告中
 - ・宇佐美沢橋梁橋台工事、橋脚工事：7月入札公告予定 ほか

重点戦略6：環境との調和を目指した農村機能の充実

【達成指標】

目標指標	H22 基準年	H25 計画	H29 目標年
農地・水保全管理活動面積	890ha	1,026ha	1,069ha
環境保全型農業直接支援対策面積	(H23) 16ha	21.3ha	32ha
農業用水を活用した小水力発電の容量	7kW	7kW	37kW

- 地域ぐるみで取り組む農地・水・環境の保全活動に対する支援
 - ・地域の核となるリーダーの育成（リーダー育成研修への参加促進）
 - ・例年実施される国主催のリーダー育成研修への参加
 - ・「中山間地域農業直接支払事業」、「農地・水保全管理支払交付金」等を活用し、地域ぐるみで取り組む農地・農業用水等農村資源の維持と多面的機能の発揮を図る取組への支援
 - ・中山間地域農業直接支払事業推進・・・市町村基本方針の改定（今年度）
 - ・農地・水保全管理支払交付金については35活動組織に対し交付予定（このほか自立組織が12活動組織ある。）
 - ・農業・農村の多面的機能に対する県民の理解を深めるための情報提供（「農地・水の集い」、巡回パネル展の開催）
 - ・農地・水の集いへの参加（11月下旬～12月上旬開催、松本市）
 - ・巡回パネル展の開催・・・イオングループと連携実施で調整中
- 環境にやさしい農業に取り組む農業者（組織）への技術習得支援や消費者の理解促進のための情報発信等
 - ・エコファーマーや環境に信州のやさしい農産物認証制度の導入技術相談や導入計画作成支援、技術導入支援（エコファーマー相談会6ヶ所、農産物認証1回）
 - ・エコファーマー相談会：JA須高管内4ヶ所、小川村1ヶ所実施済み。他は検討中。
 - ・信州の環境にやさしい農産物認証相談会：12月頃開催予定
 - ・環境保全型農業直接支払交付金の取組支援
 - ・エコファーマー取得者に対する取組
 - 制度説明会の開催（4月25日（90人）、26日（100人）、30日（21人）、5月1日（35人）にJA須高の各支所において、果実専門委員会の会員を対象に新規取得、再認定に対する説明会を開催した。また、小川村1カ所で実施済み。他は検討中。PRチラシの郵送
 - ・環境にやさしい農産物認証相談会：12月頃開催予定

- ・農産物の安全・安心を消費者にPRするため、GAP手法（適正農業管理）の導入を推進
- ・農産物直売所への導入の啓発（1か所）

- ・県HP等による消費者への情報発信

- ・基礎データ、経過ウ等の情報をホームページで発信、イベント等情報についてブログを活用して発信

○ 水路等の農業水利施設を利用した小水力発電施設の設置に向けた取組への支援

- ・県営かんがい排水事業の推進（里島地区（長野市 善光寺平用水）：小水力発電施設の設置に係る測量・設計一式）

- ・小水力発電施設設計業務委託：7月入札公告予定

○ 地すべり防止区域の適切な管理

- ・地すべり防止区域の巡視や地すべり防止施設の維持保全等（一部市町村委託）、日常的な管理を実施（41区域）

- ・職員による巡回点検を随時実施

- ・管理の一部について、H25.4.1付けで長野市、千曲市、高山村に委託

- ・地すべり対策事業（国補）を実施（継続3地区、新規2地区）

- ・継続地区：松葉、長岩、天間芦沢（いずれも長野市）

- ・新規地区：上河、塩本（いずれも長野市）

食と農業農村振審議会 年間スケジュール

